

生きる喜びを Let's create Iwate as a place to live happily. 感じられる岩手に！

いわて
県政
レポート
2025
秋号

岩手県議会議員

ハクセル 美穂子 MIHOKO HUXEL

ハクセル美穂子プロフィール

- 昭和50年3月6日 雫石町生まれ
- ◎家族／アメリカ人の夫、4人の息子（高3、高2、高1、中1）
- ◎職業／英会話教室経営
- ◎趣味／読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
- ◎学歴／雫石町立御明神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
- ◎経歴／平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選
令和5年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区3期目の当選

f ハクセル美穂子
オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



2025.4月28日 臨時議会

2025.5月13～14日 総務委員会 現地調査

2025.5月20日 県立高校に関する地域検討会議

2025.5月27日 東日本大震災津波復興特別委員会 現地調査(宮古市)

2025.6月4日 観光・交通政策調査特別委員会 現地調査

今回は、九戸村のAIデマンド交通「まさざねGO!」の取組み状況と洋野町で「みちのく潮風トレイル」を活用したアドベンチャーツーリズムの取組みを調査しました。九戸村では、既存のバス停まで遠く免許を返納した高齢世代の利便性を重視して、村内をきめ細やかに配車することができるAIデマンド交通を導入しています。また洋野町では、関係する民間業者が連携して「歩いた先で宿泊、その間に荷物を移動する」行程をパッケージ化、みちのく潮風トレイルを歩きたい外国人旅行者の受入体制を整備しています。これらの取組は、県内で横展開をするべき優良な政策であり、取組が県内各地で活かされるように働きかけていきます。



にぎわい創造交流施設～ヒロノット～
(洋野町)

2025.6月9日 盛岡広域振興局 地域課題懇談会

2025.6月20日～ 6月定例会

一般質問に登壇しました! 詳しくは裏面の
アセンブリーニュースでお伝えします!

2025.7月6日 雫石町消防フェス

消防団ラッパ隊隊員として
ラッパ吹奏訓練に参加

2025.7月9日 岩手県議会出前講座(盛岡工業高校)

2025.7月15日 大船渡市林野火災現地調査 県民クラブ・無所属の会

今年2月に発災した大船渡市林野火災で被災した地域を訪れ、現在の状況を再調査しました。綾里地区に設営された仮設住宅や、アワビの陸上養殖を営む元正榮北日本水産株式会社様の現状を確認し、大船渡市とも意見交換を行いました。皆様から頂いたご意見は、一日も早い復旧復興のため今後の議会活動の中で活かしていきます。



被災した大船渡のアワビ養殖施設で状況を調査



綾里地区の仮設住宅視察

2025.7月22～23日 総務委員会 現地調査(福島第一原発)

今回は、福島水素エネルギー研究フィールドと東京電力福島第一原子力発電所を調査しました。福島水素エネルギー研究フィールドは、福島県浪江町に立地しています。原発事故の大きな影響を受けた浪江町の土地を活用し太陽光発電を利用した水素製造・運搬等について研究している施設です。余剰電力から水素を製造することにより、エネルギーを備蓄し使用できるようにするための研究が日々行われていました。エネルギーを無駄にしない最先端の取組みは岩手においても有効活用すべき技術であると感じました。



福島水素エネルギー
研究フィールド

東京電力福島第一原子力発電所では、日々進められている廃炉処理の状況、ALPS処理水の処理工程と海洋放出の状況を実際の現場で調査しました。調査の際には一人ひとり線量計を身に着けます。調査1回あたりの被ばく量は0.008ミリシーベルト程度(歯科レントゲン1回分)で、事故当時から状況がかなり改善されている事を確認しました。ALPS処理水放出後も定期的に周辺海域の状況を調査し「処理水ポータルサイト」<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>で皆さんが確認できるように調査結果を公表しています。ぜひ、確認してみてください。風評被害に振り回されないように、正しい情報を知ることの大切さを実感しました。

6月定例会で一般質問に登壇しました！

岩手県議会6月定例会が、6月20日から15日間にわたり開会されました。そして、6月30日に私が一人目の登壇者として、80分間の持ち時間をいただき知事・執行部に対して質問をしました。今回のアセンブリーニュースでは、6月定例会一般質問の詳しい内容を皆様にお知らせします！

①持続可能な岩手農業のあり方について

今回、私の最重要テーマはやはり【農業】です。昨年から始まった令和の米騒動によって世の中の農業に対する関心が高まっています。米価が高騰し、消費者の生活に影響が出ましたが、農家の経営改善には必ずしもつながっていませんでした。この出来事を契機に「次世代へつなぐ再生産可能な農業」を岩手に確立する必要があります。農家が機械更新などの再投資を安心して行えるだけの利益を確保できる仕組みをつくり、それを岩手の標準的な農業としていくことが重要です。特に中山間地域では農業が基幹産業であり、地元農家の経営継続を県が支える責務があります。

そこで、岩手県が目指す「強い農業」とは何か、その実現に向けた取組はどうあるべきか、国への提言をどのような場で行い、今後どう働きかけていくのかを知事に問いました。

【知事の答弁】

岩手県は、10年後に「地域の強みを生かし、生産性が高く持続可能で、多様な人材が活躍する強い農業」を実現することを目指しています。

そのために、次の取組を進めています。

- 気候変動に強い品種の開発や県産飼料の活用、水田の大区画化など生産基盤の整備
- 有機農業やGAP認証の推進、担い手への農地集積・新規就農者支援、農業大学の機能強化
- 水稻品種拡大、中山間地域モデル創出、沿岸の大規模園芸施設整備
- データ駆動型農業技術の開発

さらに、再生産を考慮した合理的な価格形成や取引の仕組みづくりも国に要望しています。

これらにより、岩手県全体の農業生産を拡大し、食料供給基地としての地位を高めることを目指しています。

【岩手県は国に対してどのような提言をしているのか？】

こうした取組を進めるには、国の政策との連携が不可欠です。そこで県は、国に対してどのような意見をどの場で提言しているのか、また今後どのように働きかけていくのかを知事に質問しました。

【知事の答弁】

岩手県は、農業の持続性と食料安全保障の確保のため、国に次のことを要望しています。

- ①再生産を考慮した適正な価格形成や取引の仕組みの構築
- ②地方の実情に応じた基本計画の策定と施策の充実・強化
- ③国と地方の連携による食料安全保障の強化、輸入依存作物（麦・大豆・飼料）の生産拡大



- ④米の適正価格形成、水田政策の見直し、生産基盤の整備
 - ⑤農地の集積・集約化の加速と次世代農業者の確保・育成
- これにより、岩手県の農業を強化し、安定した食料供給を確保していくことを目指しています。

【岩手ならではの農業政策をどう考えているのか？】

岩手県は広大な県土を持ちますが、中山間地域での営農は条件が厳しく、県独自の農業支援策が必要です。持続可能な農業を支えるため、県としてどのような政策を展開していくのかを問いました。

【知事の答弁】

岩手県では、地域の特性に応じて、農業の持続的な発展を支えるさまざまな支援を行っています。

- 中山間地域等直接支払制度を活用した農業生産活動の支援
- 農村型地域運営組織（農村RMO）による農地保全や地域資源の活用支援
- 人材育成：いわてアグリフロンティアスクールによる農業人材の育成
- 担い手支援：規模拡大や多角化に向けた施設・機械導入、農業基盤の整備

これらの取組により、地域に根ざした農業を守りながら、次世代の担い手づくりと生産基盤の強化を進めています。

他に、

【新規就農者・認定農業者の確保をどう考えているのか？】

以前岩手県が設定した認定農業者数の目標に届いていない現状を指摘し、担い手不足の改善策を質問しました。新規就農者が増えても、地域の基幹を担う認定農業者数が減っているのでは意味がありませんので、若手や新規就農者が着実に成長し、地域の担い手へと育つ仕組みづくりを県に求めました。

【農業を支える人材とコスト低減の工夫、農業強化のための投資は？】

営農を支える普及員の活動はとても大切です。優秀な指導員の力で産地が伸びた事例を紹介し、県の普及員の活躍の場を広げてほしいと訴えました。また、化学肥料の値上がりが続く中で、有機堆肥の活用をどう進めていくのかを質問しました。

最後に、農業を強くしていくために県がどのくらい力を入れるのかを問いました。認定農業者が増えている県もある中で、岩手は伸び悩んでいます。生産拡大と担い手確保のために、もっと積極的な投資が必要だと訴えました。

②岩手の文化や自然を活かす観光施策について

岩手ならではの文化や自然環境を活かした観光を進めるためには、文化スポーツを所管する部局が観光行政も担う組織体制が必要です。観光政策を支える組織の在り方について知事に質問しました。

また、「みちのく潮風トレイル」のパッケージツアーが外国人旅行者に好評で大きな経済効果を生んでいます。岩手県内各地の特徴を生かすことができる体験型観光（アドベンチャーツーリズム）商品の造成を強化するべきです。このような取組を県内各地に広げるため、市町村や関係機関とどう連携していくのかを質問しました。

【知事、執行部の答弁】

中長期的な組織のあり方について本格検討を開始しているので、その中で組織再編について検討していきます。また、今年度から市町村や関係事業者等を対象とするワークショップを開催するなどし、受入れ態勢の強化に取組めます。

③県と市町村との連携強化について

秋田県では、知事と全市町村長が定期的に協議し、課題のフォローアップまで行う仕組みがあり、それが具体的な成果につながっています。岩手県においても会議の議論に連続性を持たせ、共通課題には振興局の枠を超えて対応できる仕組みが必要だと訴えました。

【知事の答弁】

トップミーティングや連携推進会の開催等により市町村長や副市町村長などの情報共有・意見交換を行い、市町村との連携を推進してきた。今後も知事と市町村長との情報共有・意見交換の機会を活用し、課題解決に取り組んでいきます。

④高校生・若者世代の声を政策にする施策とジェンダーギャップの解消について

令和7年度、岩手県の最重要課題として「ジェンダーギャップの解消」が掲げられています。このためには、若者世代の意識調査を踏まえた政策づくりが必要であり、特に高校生や若い女性がどのように進路や就職を考えているのかを分析し、女性の人口流出を防ぐ施策につなげるべきです。そこで、大槌町の高校生が発端となった「全国高校生マイプロジェクトアワード」に私は注目し、教育長にその意義や感想を伺うとともに、岩手県内での開催を政策に活かす可能性について質問しました。加えて、参加者が年々減少している「ネクストジェネレーションフォーラム」と連携させ、若者の声を広く集める仕組みにすべきと提案しました。

また、岩手県公安委員会委員であり、未来づくり機構ラウンドテーブルメンバーでもある盛岡商工会議所会頭が知事と共に「若者・女性に選ばれる岩手宣言」を行った後に「もりおか舞妓」募集記者会見で「芸者を呼ぶ人は男性なので、若い人を好むのは当たり前」という不適切発言をしたことに関し、知事の所見を伺いました。ジェンダーギャップの解消を県の柱に掲げながら、未来づくり機構のメンバーが全員男性である現状も指摘し、改善の必要性を問いました。

【知事、執行部の答弁】

県政懇談会、ネクストジェネレーションフォーラム、意識調査などで若者世代のニーズ把握に努めてきました。今後も更なる工夫をし、高校生・若者世代の意見を直接聞き、県の施策に反映させていきます。また、盛岡商工会議所会頭の発言は、事業説明の中、誤って発言されたものと認識しています。ご本人が後日釈明されておるとおりと知事自身も考えています。

⑤知事政務秘書の透明性の確保について

知事は就任以来、県の予算を用いて政務秘書を雇用されています。しかし、その活動内容は県民にも議会にも十分公開されていません。政治活動に関わる補佐という理由であれば、なおさら透明性を確保するべきです。県民に対し、職務内容を明らかにする必要があるのではないかと知事に問いました。

【知事の答弁】

特別職の公務員である知事はじめ副知事、県職員幹部の日程もすべて公表していないのと同様に政務秘書の日程についてもすべてを公表する必要はないと考えます。

一般質問の動画は県議会のホームページから視聴できます。



ハクセル美穂子「車座座談会」を開催します！

楽しかったこと、苦しかったこと、いろいろな日々の出来事を語り合しましょう！テーマを決めず、ざっくばらんに日々考えることを語り合う会です。皆さまの声を岩手の地域づくりに活かしていきます。ぜひ、ご参加ください。

9月22日 月

御所公民館／午後6時半～

9月24日 水

西山公民館／午後6時半～

9月25日 木

御明神公民館／午後6時半～

9月26日 金

雫石公民館／午後6時半～

上記のほかにも、随時、座談会を開催していきます。詳しい日程は別途お知らせいたします。皆さんのご参加をお待ちしています。また、座談会開催のご要望も受け付けています。DM、HP、FAX等でご希望の開催地と日時をお知らせください！より良い地域づくりのために、皆さまのお声をお聞かせください！

